

騒音を考慮した音声案内システム

—適切な時に、適切な音量で音声案内—

背景

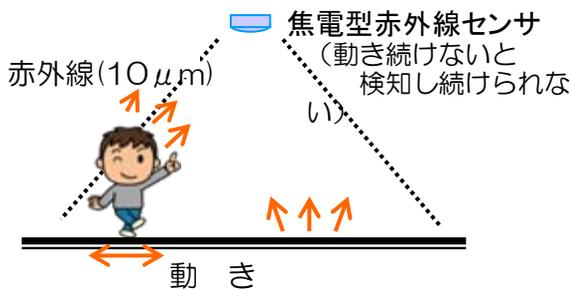
- 音声・音響で案内する装置が急増！
 - ・ 高齢者・視覚障がい者に配慮し、音声化が進む。
- 静かな時でも大きな音で「うるさい！」
- 過剰に反応して「うるさい！」
という問題が
(バリアフリー化の弊害)

豆知識

『高齢者・障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律(バリアフリー新法)』
第7条 エスカレーターには、当該エスカレーターの行き先及び昇降方向を音声により知らせる設備を設けなければならない。
(同法律のガイドライン)
・ トイレ出入口付近において、位置と男女別が分かる音声案内を行うことが必要である。
・ 音量、音質、設置位置など騒音とならないように配慮することが必要となる。

一般的な音声案内

焦電型赤外線センサで人の動きを検知



検知する度に動作を指令

何度も同じ案内を聞くことに



内容 → ①過剰な音量にしない

②過剰に反応しない

①周囲の音に応じて音量を調整

※マイクで周囲の音量を計測、案内音量を調整



②人の動きを判断し過剰反応を抑制

※検知エリアの違う2つのセンサで判断



過剰な案内が98.5%削減
[トイレ前触知図基本行動パターンで]

応用

- 防犯用センサに
- 徘徊検知センサに
- 省エネ用センサに
- 各種音声案内機能組み込み装置に